

活動報告

団体名	P3
活動名	全ての支援者の円滑な活動のための熊本県建設型仮設支援者マップ制作事業
活動期間	2017年4月～2018年7月
活動の成果	<p>(活動開始前と後の地域の変化)</p> <p>活動開始時は仮設団地入居半年から1年くらいの間のため、隣近所のコミュニティ形成や自治会の活動支援などに対応していたと思います。活動後は入居期限を目前に控えた方々の引越しや片付けなどのニーズが激増しています。活動開始から比べると支援団体の数も半分以上に減ってしまい、全国からのボランティア人材受け入れが課題ですが、コーディネートする団体も激減しました。</p> <p>(活動で得られた成果)</p> <p>支援者マップは支援者からは欲しい情報を、地域住民からは取材の配慮を。両方の学びがうまく融合したコンテンツとなっています。また読み物として、地域のアーカイブ的な見方も出来るように配慮しました。全仮設団地分の自治会に支えあいセンターを通し冊子にして寄贈する手配をしています。</p> <p>手に取る方々の範囲が広く、数値的には成果が表せませんが、皆さんのスマートフォンに支援のお供として忍ばせていただけたら幸いです。</p> <p>(課題)</p> <p>情報は常に新しくなります。どこまで更新できるかが課題となりますが、仮設団地が終了するまでは支援者のために更新できればと思います。</p>
寄付者へのメッセージ	<p>発表する頃には熊本地震から2年が経ち、初期の混乱も落ち着いた頃だと思えます。現在熊本は課題の仮設団地入居者の住宅再建に取り組んでいます。入居期限の2年を間もなく迎えるため、これから再建先が見つかった世帯や、1年延長申請が通らなかった世帯は退去していかれます。</p> <p>支援者へ寄せられる要望として「引越支援」「片付け支援」を中心に「コミュニティ再生」や「災害公営住宅のペット入居問題」など、活動を開始した1年目よりニーズが高まっているのが現状ですが、それを担うボランティアの数は日増しに減少しています。今回の活動はそのような中、奮起していただいた全国のボランティア有志の皆様が、少しでも現地で困りごとが無いよう、熊本に支援に来てくれる後押しになればと始めた活動です。現場では何が起こるかわかりません。案内人不在の現地でも、ある程度の情報が得られ安心して支援していただければ、我々の活動の成果が役立ったと思えます。</p> <p>また、仮設団地はいずれ撤去や集約などで閉鎖を迎えます。あの日震災で入居を余儀なくされた住民の皆様の生活が、確かにここにあったという思い出や記録にも残せるように、支援者だけでなく住民の方にも利用していただければと望みます。</p> <p>ただの構想の一つであったこの企画が、ここまで多くの方の協力により、形にすることができたのは寄付者の皆様の支えがあってこそです。我々のような若い団体にも社会貢献の機会をいただいた事に深く感謝いたします。ありがとうございました。</p>

(活動のようす)

